

- 架設支保工(14,950空m³)の施工に際し、**複合現実技術(以下、MR技術)**を活用したものであり現場の社内検査の効率化、今後の建設現場の施工管理のあり方を提案した取り組みである。
- 従来の管理方法と比較した結果、支保工設置完了検査に関して、**約67%の低減が図られた結果**となっている。

【取組概要】

①支保工3次元モデル作成



②支保工設置



③MR技術による投影



④MR技術による社内検査



【有効性】

支保工社内検査時間比較図

[1ロット当り(約3800空m³, L=32m)の支保工設置完了検査結果]

MR技術による
社内検査時間

準備
10分

検査
10分

低減
40分

67%

【通常方法】

2D図面による
社内検査時間

検査
60分

※上記所要時間は、全て現場での業務時間である。

※MR機器の位置情報読み込みのため、MR技術では準備時間が必要となる。

特に「水平力対応プレス」の配置確認について効果的であった。

従来の社内検査では組立状態を支保工図面に照らしながら点検を実施

